

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 75

学校名・団体名	三重県海外子女教育国際理解教育研究協議会
コース	団体研究
活動・研究のテーマ	多文化共生の時代を切り拓く児童生徒の育成

1 実施計画に至るまでの経緯

三重県海外子女教育国際理解教育研究協議会（三海研）は、日本人学校等の在外教育施設等へ派遣された教員やこれから派遣を希望する教員で構成され、1984年に発足し、現在の会員数は170名を超えるに至っている。

本研究協議会は、本会に所属する会員が海外で過ごした貴重な体験や身に付けた国際感覚を教育の場に生かしたいという願いで発足し、海外における海外子女教育及び国際理解教育という得がたい機会に恵まれた元派遣教員は、帰国後、その経験を勤務校教育活動推進や教育行政等において遺憾なく発揮しており、各方面から高い評価を得ているところである。

三海研は研究テーマを「多文化共生の時代を切り拓く児童生徒の育成」とし、主として次の領域で研究を進めている。①多文化共生教育、②外国語（英語）教育、③SDGs教育（ESD）（持続可能な開発のための教育）、④在外教育施設の現状と課題の4領域である。

本会研究推進活動は、三重県教育委員会及び県内各市町教育委員会のご指導やご支援をいただきながら、三重県下唯一の総合的な国際理解教育推進団体としての地位と方向性が一段と定まりつつある。特に、一昨年度（平成28年度）より三重県総合教育センター夏季研修講座の「国際理解教育」講座担当を委託されたことは三重県教育委員会からの高い評価を得た証であり、今年度も夏季休業中に「国際理解教育」の研修講座を開催した。

今年度（平成30年度）は、東海4県が主催開催を輪番で担当している「第12回東海ブロック国際理解教育研究大会」（文科省、三重県教育委員会等後援）を三重県で実施した。

東海4県（愛知・岐阜・静岡・三重）に設立されている国際理解教育研究協議会が11月10日（土）に鈴鹿市立白子小学校に集い各県の研究成果を交流し合った。今後の各県の国際理解教育の振興に資する成果を残し、盛会のうちに無事終了することができた。

2 活動内容 **第12回東海ブロック国際理解教育研究大会（三重大会）**

- (1) 日時・場所 平成30年11月10日（土）12:30～ 三重県鈴鹿市・鈴鹿市立白子小学校
- (2) 参加者 東海4県教育関係者・その他の地域より約110名
(三重県本研究協議会会員及び県内教育関係者約60名、愛知・岐阜・静岡国際理解教育研究協議会関係者約40名、大阪・東京・埼玉より10名)
- (3) 研究テーマ 「多文化共生の時代を切り拓く児童生徒の育成」
～新たな国際理解教育の創造をめざして～
- (4) 研究内容 ・記念講演・4分科会実践交流
・分科会 分科会1「多文化共生」 分科会2「外国語活動」
分科会3「SDGs」(ESD) 分科会4「在外教育施設」
・三重県教育委員会講評
- (5) 成果と課題

記念講演

まず、ブラジル生まれ、ブラジル育ちの大村ミリアン氏から「外国人」として日本に住むことのご苦労をご自身の経験をもとにお話いただいた。日本での生活の中で遭遇した幾多の苦難を乗り越え、常に前向きに生きてこられたその姿に参加者は皆、感銘を受けているようであった。

続く講演者の後藤彰夫氏は日本人学校で教諭として勤務した経験のある方で、現在はホンダ技研工業において、外国（主として北米）に赴任する家庭の子女に対する教育相談を担当されており、企業が海外赴任の家庭に対して教育面でのサポートに力を入れている様子をお話いただいた。派遣前はもとより、赴任中はメールや電話で、また、一時帰国時や帰国時にも相談活動に取り組む正に現場の様子・状況を伺うことができた。海外に赴く児童生徒を支援していく上で大変参考になる講話であった。

テーマ別分科会

(①多文化共生、②外国語活動、③SDGsに関わる教育、④在外教育施設)

4つの分科会に分かれて、東海4県の実践者から各テーマに沿った内容の実践発表が行われた。

それぞれが、「国際理解教育」を推進していく上での重要なテーマである。多文化共生教育は、外国人児童生徒の比率が高い本地域全体の教育課題であり、外国語教育は、全国的に推進が求められている分野である。SDGsに関わる教育は今後ESDの後継概念として教育界でも取り込まれていくのではないかと考え、先進的に取り入れた内容で、今回は相山女学園大学学部長の宇土泰寛教授の特別講義を取り入れ、東海地域にその概念を普及させることを目指した。在外教育施設の分科会では、帰国者による在外教育施設での取組還流に加え、後藤彰夫氏に北米補習授業校の最新情報を提供していただいた。

それぞれの分科会で、今後の各県での実践や研究に資する熱心な討議が行われた。

三重県教育委員会講評

三重県教委・沖河雅子指導主事より、各分科会に対し次のようなご講評をいただいた。

- ①多文化共生教育においては、様々な人との出会いを大切に、違いを認め合える関係性を作っていくことが重要であること。
- ②外国語教育を進めることで、積極的にコミュニケーションを図る意識が高められ、国際交流を進める素地ができること。
- ③SDGs教育は、地球環境を守り持続可能な開発を進めていく上で大切な視点(目標)を有すること。
- ④在外教育施設はグローバル人材の育成に最適の環境であり、国際理解教育をしっかりと進めてほしい。

最後に、各県の国際理解教育研究協議会が今後も積極的に研究を進め、各県の児童生徒が広い視野を持ち国際貢献できる人材として育っていくように、今後も会員各位が研鑽を積んでいくようにとのことをお話をいただいた。今後の東海4県の交際理解教育推進の目指す方向に貴重なご示唆を与えていただいた。